

海部地区環境事務組合地球温暖化対策実行計画の実施状況について

1 令和6年度の温室効果ガスの排出量

令和6年度に海部地区環境事務組合から排出された温室効果ガスの排出量は表1のとおりである。

令和6年度に海部地区環境事務組合から排出された温室効果ガス排出量のうち、エネルギー起源は241t-CO₂、非エネルギー起源は18,053t-CO₂となり、削減目標の基準年度である平成25年度と比較し、エネルギー起源は92.6%、非エネルギー起源は29.3%の削減となり、令和6年度の削減目標を達成している。

また、令和6年度の温室効果ガス排出量の合計は18,294t-CO₂となり、平成25年度の排出量28,767t-CO₂と比較すると10,473t-CO₂、36.4%の削減となった。

現段階で2030年度の目標値を達成しているが、今後排出量が増加し目標未達成にならないように、引き続き、海部地区環境事務組合地球温暖化対策実行計画に基づき、電気使用量や燃料使用量の削減だけではなく、省資源や職員・見学者の意識の向上、ごみの削減や分別に関する住民への啓発等の取り組みを進めていく。

表1 温室効果ガス排出量の実績及び基準年度との比較

	H25 (2013)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)		R12 (2030)
		実績	実績	実績	目標	最終目標
エネルギー 起源(t-CO ₂)	3,240	1,623	548	241	1,846	1,587
削減率(%)	0	49.9	83.1	92.6	43	51
非エネルギー 起源(t-CO ₂)	25,528	21,295	18,095	18,053	22,694	21,699
削減率(%)	0	16.6	29.1	29.3	11.1	15

※ 地球温暖化対策の推進に関する法律の一部改正により、令和5年度の算定から排出係数・地球温暖化係数が変更された。

参考
総排出目標

	H25 (2013)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)		R12 (2030)
		実績	実績	実績	目標	目標
組合合計 (t-CO ₂)	28,767	22,918	18,643	18,294	24,540	23,286
削減率(%)	0	20.3	35.2	36.4	14.7	19.1

2 温室効果ガス排出量の増減状況

令和6年度の温室効果ガス排出量はエネルギー起源、非エネルギー起源共に目標値および最終目標値を達成している。

エネルギー起源温室効果ガスの内訳は表2のとおりである。電力由来はCO₂を排出しない再生可能エネルギー電源に由来する電気(CO₂フリー電力)のため、温室効果ガス排出量は0となり、八穂クリーンセンターの電力以外のエネルギー起源温室効果ガスが増加したことについては、灯油使用量が令和5年度の約74,135Lから令和6年度の約89,370Lに増加したことが主な原因と考えられる。
(予備ボイラ稼働時間の増加)

非エネルギー起源温室効果ガスの減少に関しては、焼却ごみ量の減少が主な原因と考えられる。

表2 エネルギー起源温室効果ガスの内訳 (t-CO₂)

		R4	R5	R6
八穂クリーンセンター	電力由来	64	38	0
	電力以外	276	198	236
新開センター	電力由来	729	180	0
	電力以外	2	2	3
上野センター	電力由来	549	127	0
	電力以外	3	2	2